



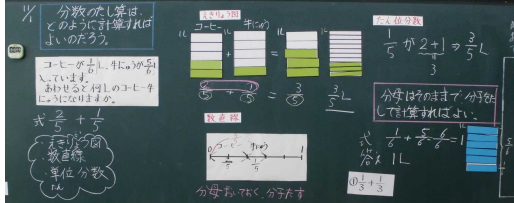










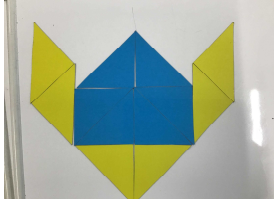

# ちばっ子の学び変革！

| 研究指定校の取組（令和元年度） |   |
|-----------------|---|
| 校名              | 館山市立館山小学校   |
| 研究概要            | <p>○研究主題<br/>進んで学習する子どもの育成をめざして<br/>—子どもに学習力を！教師に授業力を！「館小モデル」での取組—</p> <p>○研究目標<br/>「進んで学習する子どもを育成するために、教師の授業力を向上させ、子どもの学習力を向上させる実践を行い、『館小モデル』の維持・改善を図る」</p> <p>○令和元年度の重点<br/>・昨年度の課題「子ども同士の発表のつながりや深まり」を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業改善を検討していく。特に、主体的な学びの視点、対話的な学びの視点に重点をあて、授業改善をしていく。</p> <p>○研究推進体制<br/>・各学年の職員を国語、算数、特別支援教育部会の3つの部会に振り分けて配置。<br/>・年2回の公開研究会では、国語科、算数科、特別支援教育の実践を行う。</p> |
| 実践内容            | <p>4年   国語科   問い・ストーリー4「ごんぎつね」<br/>個人→グループ（3人）→クラスの順で問いをつくる。</p>  <p>良い問いの条件を基に、クラスで問い（3つ）をつくる。</p>   |

|      |   |                  |     |                  |
|------|---|------------------|-----|------------------|
|      | <p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての手立てとその成果（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの言葉で「作品の心」に迫るための問いをつくる。</li> </ul> <p>→着語読みで物語と出合い、素朴な疑問を個人で書き出した後、良い問いの条件（①作品の心に迫ることができる。②いろいろな意見が出る。③本文を根拠に考えることができる。）を基に、個人で問いを3つにしぼる（計99個）。次に、3人対話を繰り返しながら、問いを3つつくる（計33個）。グループで3つつくる中で、本文を根拠にするために、何度も本文を読み返し、物語全体を読み深めることにつながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・33個の問いを分類・整理した後、クラスで問いを3つつくる。</li> </ul> <p>→各グループの3つの問いを持ち寄り、共通する言葉や問い同士のつながりを考えながら個人で分類・整理する。その個人の考えを基に、再び対話を繰り返しながらクラスで3つの問いをつくる。問いといもを関連づけて「問いも」と名付け、問い同士のつながりを考えることで、精選された問いを3つつくることができた。また、子どもの言葉で問いをつくることによって、子どもが課題を明確に捉え、読み深めていくための意欲を引き出すことができた。</p>  |                  |     |                  |
|      | <table border="1"> <tr> <td data-bbox="261 884 357 925">6年</td> <td data-bbox="357 884 523 925">国語科</td> <td data-bbox="523 884 1418 925">問い・ストーリー6「きつねの窓」</td> </tr> </table>  | 6年               | 国語科 | 問い・ストーリー6「きつねの窓」 |
| 6年   | 国語科   | 問い・ストーリー6「きつねの窓」 |     |                  |
| 実践内容 | <p>みんなで作った問いについて考えたことを3人対話で交流する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>みんなで作った問いについて考えたことを全体で交流する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての手立てとその成果（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで作った問いについて考えたことを3人対話で交流する。</li> </ul> <p>→スピーチと黙考を繰り返していくことで、子どもたちは自分と友達の考えを比べながら共通点と相違点を明らかにし、自分の考えを深めたり広げたりすることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで作った問いについて考えたことを全体で交流する。</li> </ul> <p>→みんなで作った問いを巡り、友達と心ゆくまで語り合う活動を通して、子どもたちは互いの考えを共有することができ、自分たちで物語を読み深めていくことができた。</p> |                  |     |                  |



|      |   |     |                          |
|------|---|-----|--------------------------|
| 実践内容 | 3年  | 算数科 | 「分数のたし算はどうやって計算するの？」(分数) |
|      | <p>分数のたし算は、どのように計算すればよいかを考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>液量図、数直線、単位分数の個数分の考えを使い、分母はそのままで分子はたして答えが求められることに気づかせる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の手立てとその成果</li> <li>・既習の内容や方法を振り返る場面を設定する。</li> <li>→液量図、数直線、単位分数の3つを既習として確認し、子どもたちはそれら3つの考えを使って見通しをもって問題解決に取り組むことができた。</li> <li>・児童が多様な考えを理解できるように、互いに学び合う場面を設定する。</li> <li>→ペアでの相談や全体の話し合いでは、仲間の多様な考えに触れ、理解を深められるようにノートを仲間に見せながら液量図や数直線、単位分数を使い、図と式を関連づけて説明することができた。</li> </ul>  |     |                          |
| 実践内容 | 5年  | 算数科 | 「どっちが速い？」比べる方法を考えよう(速さ)  |
|      | <p>3種類の動物についての速さを比べる授業で、時間が同じで距離が違う動物を比べることができた。次は時間も距離も違う動物はどのように比べたらよいかを考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての手立てとその成果(本時)</li> <li>・対話的な活動として相談タイムを設定する。</li> <li>→自分の考えを相手に伝えるために、相談タイムの場を設定した。相手の考えを聞いて自分と比較したり良かったことをコメントとして書いたりしたことで、良く聞くようになった。</li> <li>・深い学びとして発展問題を子どもが考え、全員で解く。</li> <li>→広げ深める場面が終わると「じゃあ」といって子どもたちが問題を考えた。最初はなかなかその場で考えることができなかったが、毎時間取り組むことで考えてきたり、その場で発表できるようになった。</li> </ul> <p>発展問題に取り組むことで、適用問題がよくできるようになり、本時の学習内容が理解できるようになった。</p> |     |                          |

|      | 言語   | 自立活動   | したをたいらにしよう                |
|------|--|--------|---------------------------|
| 実践内容 | 舌を平らにするために、視覚的な支援と即時評価を行う。   |        |                           |
|      | <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての手立てとその成果（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境や教材に配慮した耳づくりの活動をする。</li> </ul> <p>→体の動きを止めて教師の発音を聞くと集中して聞くことができるので、環境や教材に配慮した。子どもが手に何も持ったり、触れたりしないことで最後まで集中して聞くことができた。また、即時評価をすることによって、正しく弁別できたかどうかを子ども自身が確認できた。さらに、課題音についての弁別が正しくできるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・即時評価において、子どもの表現を大切にする。</li> </ul> <p>→「舌の奥が上がっていたかどうか」と舌を見る観点を絞ったため、児童自身が判断することができることもあった。「舌は平らだったか」「舌の奥が上がっていたか」などの教師の発問には、「平らだった。」「上がってなかった。」と答えることができた。</p>   |        |                           |
| 実践内容 | 特別支援   | 生活単元学習 | 色々な形を作って なかよしパズル道場を成功させよう |
|      | ペアやグループで親しみやすい課題に取り組むことを通して、関わり合う力を育てる。  |        |                           |
| 実践内容 | <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての手立てとその成果（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の見通しをもつ</li> </ul> <p>→見通しがもてるよう活動の流れを提示した。活動の流れを子どもたちと確認したことで、次の活動に移るときには子どもたちが自発的に準備などをする姿をみられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような実態の子どもでも取り組めるように、教具を素材から調整する。</li> </ul> <p>→使用する色板は扱いやすいように大きさや材質、厚みなどを調整した。図形の操作に抵抗感があった子どもが、活動を重ねる中で自分から取り組む姿を見るようになった。また、形をとらえることが苦手な子が取り組みやすいように色板の色を2色にした。そのことでペアで複雑な図形を模倣する時にも色の違いを頼りに形を作る様子が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用し、子どもたちの良い姿を共有する。</li> </ul> <p>→子どもたちが振り返る場面で、タブレットで撮影したものを画面に映すなどの活用をおこなった。子どもたちの良い場面や活動途中の作品なども振り返ることができ、教師側もその場面で共有することができた。タブレットで改めて自分たちの姿を振り返ることで、子どもたちの意欲が高まる様子が見られた。</p> |        |                           |
|      |  |        |                           |